

国際文化交流特論(浮世絵における中国画題について)

張 小鋼

● 講義概要

本研究では、浮世絵における中国文化の影響についての内容である。浮世絵は日本文化の代表的なシンボルである。たとえば、世界の文化遺産である富士山は葛飾北斎の『富士嶽三十六景』などの作品によって認定されたのである。

ところで、浮世絵の中には多くの中国画題が存在する。それについて斉藤隆三の『画題辞典』、金井紫雲の『東洋画題綜覧』、及び鈴木重三の『画題一説話・伝説・戯曲』(『原色浮世絵大百科事典』第四巻)といった辞書を見ればよくわかる。中には『東洋画題綜覧』は中国画題が約三分の一を占め、最も多く収録されている。しかしながら、中国画題の数が我々の想像をはるかに超えている。この講義では江戸時代の絵師たちが如何に中国文化を受容し、そして変容したかを具体的に解説する。

● 学修到達目標

この授業を通じて、中国文化がどのように日本で受容され、そして変容されたかを観察する方法を身につけてほしい。さらに、比較文化研究の方法論で日中比較文化研究に応用することを目標とする。

● 講義計画

第1回 浮世絵とは何か。

第2回 浮世絵と中国の年画。多色刷り、遠近法について。

第3回 「見立て」、「画中画」、「絵兄弟」について。

第4回 日本における和製中国画題について。

第5回 画題「白楽天」について。課題1:「荘子の夢」

第6回 画題「楊貴妃」について。課題2:「邯鄲の夢」

第7回 画題「李夫人」(反魂香)について。課題3:「達磨」

第8回 『画筌』における中国仙人について。課題4:「鍾馗」

第9回 画題「蝦蟇仙人」について。課題5:「孟宗」(二十四孝)

第10回 画題「費長房」について。課題6:「竹林七賢」

第11回 画題「張良吹簫図」について。課題7:「虎溪三笑」

第12回 画題「瀟湘八景」について。課題8:「王子喬」

第13回 画題「唐子遊」について。課題9:「琴高」

第14回 画題「王昭君」について。課題10:「韓信」

第15回 画題「崑崙奴」(黒坊)について。

● 事前事後学習

①事前に配布した資料を予習したうえで、質問を準備すること。

②分担した課題を事前に準備すること。

● テキスト

①張小鋼『日本における中国画題の研究』(勉誠出版、2015年)

● 参考資料

①『浮世絵の歴史』(美術出版社)

②『江戸浮世絵を読む』(小林忠著、ちくま新書)

- ③『うき世と浮世絵』(内藤正人著、東京大学出版会)
- ④『図説浮世絵入門』(稲垣進一著、河出書房新社)
- ⑤『視覚革命 浮世絵』(諏訪春雄著、勉誠出版)
- ⑥『江戸見立本の研究』(小林ふみ子他共著、汲古書院)
- ⑦『「見立」と「やつし」—日本文化の表現技法』(国文学研究資料館編、八木書店)
- ⑧『中国の呪法』(澤田瑞穂著、平河出版社)
- ⑨『仙人ワンダーランド 和漢仙人列伝』(影山純夫著、河原書店)
- ⑩『絵本と浮世絵』(鈴木重三著、美術出版社)
- ⑪『唐子遊考—狩野派の漢画の流れ』(張小鋼著、『金城学院大学論集』人文科学編第十九卷第二号)
- ⑫『唐代“王昭君”形象的建構—以白居易的詩句為中心』(張小鋼著、『山西高等学校社会科学学報』第3期)
- ⑬『風尚、社会与風雅十八世紀東西方的共時性』(毛立平、張小鋼、牛貫傑編著、中国社会科学出版社)

● **成績評価方法**

- ①積極的に発言し、自分の考えを述べること。(平常点 20%)
- ②課題発表。約 200 字程度。(20%)
- ③レポート提出。400 字詰め原稿用紙 3 枚程度。(60%)

国際関係特論

増田 あゆみ

● 講義概要

本研究は、国際関係を、国際関係論のパラダイム(範例)に沿って、見ていくことによって、20世紀初頭の国際関係から現在の国際関係がどのように変化してきたのかを分析していこうとするものである。

20世紀初頭の国際関係論パラダイムは、列強国を行動主体(アクター)として承認した軍事力と帝国主義を重視した西欧国際体系であった。第二次世界大戦後は、米ソを中心とする東西冷戦の思考軸がパラダイムになり、1960年代からは、南北問題と国際的相互依存が、国際関係論のパラダイムに加わった。さらに地球環境問題も加わり、国際関係は、国際間関係、トランスナショナルな関係、超国家的機能による3層部から構成されるものとなった。伝統的な国家間関係にくわえ、ヒューマン・イシューとグローバル・イシューが、国際関係のパラダイムの一部を構成するようになってきたのである。

本講義においては、従来の伝統的国際関係のパラダイムの確認も行いながら、この新しいパラダイムのヒューマン・イシュー(人権論、ジェンダー、子ども、健康、エスニシティ)とグローバル・イシュー(国際連合、グローバル・ガバナンス、地域統合、多文化主義、情報ネットワーク、地球環境問題)を中心に、現在の国際関係を見ていきたい。なお、各イシューにおいては、一般的解説、および具体的な事象による事例研究を含み、問題提起を行いながらの分析を進めていきたい。

● 学修到達目標

国際関係論および国際政治学の基礎を固めることが目標となる。

国際関係論および政治での物事の構造、国家間、社会間の関係を、基本的な理論に基づいてみることができるようになることを本講義の到達目標とする。

● 講義計画

- 第1週 国際関係のパラダイム(範例)とは
- 第2週 国家間関係、国家安全保障
- 第3週 外交、戦争
- 第4週 植民地支配
- 第5週 人権
- 第6週 ジェンダー、子ども
- 第7週 人間の安全保障
- 第8週 エスニシティ
- 第9週 国際組織
- 第10週 グローバリゼーション
- 第11週 地域統合
- 第12週 多文化主義
- 第13週 情報ネットワーク
- 第14週 地球環境
- 第15週 新しい国際関係の分析に向けて

● 事前事後学習

事前学習においては、テキストを読んで、疑問・質問事項をまとめておくこと。

事後学習においては、疑問・質問事項の回答をまとめて、レポート課題にして提出すること。

● テキスト

初瀬龍平、定形衛、月村太郎編『国際関係論のパラダイム』(有信堂)

● 参考資料

テキストの中に明記。

● 成績評価方法

課題レポート報告:50%、出席:50%

● **その他留意事項**

講義中の議論に備えて、事前学習を十分に行うこと。

NGO・NPO特論

田浦 健朗

● 講義概要

地球規模の環境問題である気候変動・地球温暖化が極めて深刻になり、「気候危機」という認識も広がっている。この危機に対して世界中のユース世代が解決に向けた声を上げている。この講義では、気候危機問題に焦点をあて、解決に向けた重要なセクター・組織であるNGO・NPOについて学び、克服のための方策について考えることを目的とする。世界全体では、人口増加、貧困と格差問題、紛争などが深刻な課題であり、持続可能な社会への転換が模索されている。気候変動問題に関しては、「パリ協定」が2016年11月に発効し、脱炭素と再生可能エネルギー100%に向けて大きく転換しはじめている。2023年に開催されたCOP28では、「化石燃料からの脱却」が合意され、世界が新しい方向に向かうことになってきた。国内では、人口減少・高齢化が進みつつある状況で、新しい社会制度・産業構造、生活様式への転換が必要である。「2050年カーボンニュートラル宣言」が2020年10月だされたが、その実現に向けた課題も多い。これらの課題解決に向けて、国際社会、国レベル、地域レベルの地球温暖化防止のための政策や制度、そして地球温暖化防止に取り組んでいるNGO・NPOの現状を把握し、その使命や役割、課題について学び、議論する。講義は隔週になるので、各回のテーマに関する基礎知識を共有し、報告・ディスカッションを行う。

● 学修到達目標

NGO・NPOの視点・ビジョン・使命を理解し、現実社会の課題を発見・分析し、課題解決のための基礎的な能力を獲得すること。日本国内の公共政策・社会制度とNGO・NPOに関する理解の深化と、国際的な比較による社会的課題を整理する能力を獲得すること。

● 講義計画

- 第1回 オリエンテーション、NGO・NPOとは
- 第2回 気候変動・地球温暖化問題について
- 第3回 気候変動に関する国際交渉におけるNGO・NPO
- 第4回 気候変動対策に関する国際動向
- 第5回 エネルギー問題、再生可能エネルギーとNGO・NPO
- 第6回 再生可能エネルギー普及事例
- 第7回 地域貢献型新電力と中間支援組織
- 第8回 脱炭素地域づくりとNGO・NPO
- 第9回 地域の課題・活性化とNGO・NPO
- 第10回 国内の気候変動政策とNGO・NPO
- 第11回 家庭・オフィスの気候変動対策とNGO・NPO
- 第12回 パートナーシップとネットワーク
- 第13回 ユース世代・気候正義
- 第14回 NGO・NPOの役割・課題
- 第15回 NGO・NPOの今後の展望、まとめとレポート提出

● 事前事後学習

事前には参考文献を参照し、事後にはレビューと次週までの課題について調査する。

● テキスト

平尾剛之・内田香奈編著『京都発NPO最善戦』京都新聞出版センター、2018

● 参考資料

クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン編『気候変動を学ぼう』合同出版、2023
 櫻田彩子著『私はエコアナウンサー』本の泉社、2023
 共生エネルギー社会実装研究所編著『脱炭素の論点』旬報社、2023
 日本経済新聞社編『第4の革命カーボンゼロ』日本経済新聞出版、2023
 カーボン・アルマナック・ネットワーク編『カーボン・アルマナック』日経ナショナルジオグラフィック、2022
 グレタ・トゥーンベリ編著『気候変動と環境危機』河出書房新社、2022
 斎藤幸平『ぼくはウーバーで捻挫し、山でシカと闘い、水俣で泣いた』KADOKAWA、2022
 岸本聡子『私がつかんだコモンと民主主義』晶文社、2022
 三上直之『気候民主主義』岩波書店、2022
 堀内都喜子『フィンランド幸せのメソッド』集英社新書、2022
 NIKKEI Financial 編『ESGの奔流』日本経済新聞社、2022
 国立環境研究所『都市の脱炭素化』、大河出版、2021
 ノーム・チョムスキー他『気候危機とグローバル・グリーンニューディール』、那須里山舎、2021
 国際環境NGO FoE Japan『気候変動から世界をまもる30の方法』、合同出版、2021
 ポール・ホーケン編著『ドローダウン地球温暖化を逆転させる100の方法』、山と溪谷社、2021
 斎藤幸平『人新世の「資本論」』、集英社新書、2020
 諸富徹『グローバル・タックス』、岩波新書、2020
 夫馬賢治『データでわかる2030年地球のすがた』、日経BP、2020
 堅達京子『脱プラスチックへの挑戦』、山と溪谷社、2020
 マレーナ&ベアタ・エルンマン/グレタ&スヴァンテ・トゥーンベリ『たったひとりのストライキ』、海と月社、
 2019
 宇佐美誠編『気候正義』、勁草書房、2019
 気候ネットワーク編『石炭火力発電Q&A 脱石炭は世界の流れ』、かもがわ出版、2018
 他

● **成績評価方法**

課題の提出・報告と議論への参加(60%)。最終レポート(40%)。

● **その他留意事項**

講義計画は、変更する場合があります。

現代欧米文化・社会特論

鈴木 啓司

● 講義概要

本研究では、新聞(Le Monde 他)、雑誌(Le Point 他)、テレビ(France2 他)などメディアを通して、フランス現代事情を考える。また、常に思想界をリードするフランス現代哲学にもおりにつけ触れる。後者は社会現象を表面的にではなく深くとらえる助けとなってくれるはずだ。そのため、本科目ではフランス語を理解することが受講のための必須条件である。

● 学修到達目標

物事を表面的なことにとどまらず抽象的に考える力を養う。人間社会は結局、抽象概念で動いているからである。

● 講義計画

- 第1週 時事問題と討議
- 第2週 同上
- 第3週 同上
- 第4週 同上
- 第5週 同上
- 第6週 同上
- 第7週 小論文
- 第8週 時事問題と討議
- 第9週 同上
- 第10週 同上
- 第11週 同上
- 第12週 同上
- 第13週 同上
- 第14週 同上
- 第15週 小論文

● 事前事後学習

とにかくフランス語の能力を磨くことに励んでほしい。

● テキスト

逐次手渡す。

● 成績評価方法

受講態度70%、小論文30%といった割合。受講中は積極的に発言することを求む。

国際機構特論(国際情勢の変化における多国間機構の役割)

中野 有

● 講義概要

本講義は、激動する国際情勢の変化における国際機構の役割を多角的・重層的視点で理解し、国際機構の基礎理論を習得することを目的とする。出来るだけ分かり易い講義を理論と実務の統合を重視したアクティブラーニング形式で行う。

現代の国際情勢は、前例のない不安定さに覆われている。これは、ウクライナの紛争、イスラエルとハマスの間の緊張のエスカレーション、北朝鮮による挑発的なミサイル発射と核開発の進展など、重大な出来事によって特徴づけられている。さらに、世界中の重要な選挙が今年行われ、国際安全保障、政治、経済、社会の行方を大きく左右することになる。また、急速に進歩する生成型 AI と、高まる環境問題は、これらの世界的な課題に更なる複雑さを加えている。このような文脈の中で、これら多面的な課題をナビゲートし解決するために、国際機関の役割がますます重要かつ期待されている。

講義の達成目標は、国連機構を基軸とする平和構築の探求にある。講師の20年以上の中東、オーストラリア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの海外駐在のフィールド経験、加えてウィーンに本部のある国連工業開発機構や世界のトップクラスのシンクタンクであるブルッキングス研究所、東西センターや開発コンサルタントの多角的な経験はベースに、単なるアカデミズムの探究のみならず、実践的であり、現在進行形の地政学的研究を通じ世界の潮流を把握するのに役立つ講義を行う。

● 学修到達目標

国際情勢の変化を多角的・重層的視点で洞察する能力を養う。現在進行形の国際事情に精通することができる。自分の頭で考え国際協力に関するビジョンを形成。

● 講義計画

第1週 ガイダンス

第2週 国際機構の諸理論

第3週 グローバル・イングリッシュ

第4週 リベラルアーツ、哲学的考察

第5週 国連機構 アフリカ、途上国の開発

第6週 地球環境問題、エネルギー安全保障 食糧の安全保障

第7週 国連外交、予防外交、人間の安全保障、ソフトパワー、スマートパワー

第8週 米国のシンクタンク、多国間外交

第9週 日本と国連外交

第10週 国際機構の基礎理論の構築

第11週 国連機構 ケーススタディ

第12週 国連機構 ケーススタディ

第13週 国連機構 ケーススタディ

第14週 総括

第15週 総括

● 事前事後学習

国際情勢の変化を観察するために、新聞(朝日、読売、日経、毎日、産経、ニューヨークタイムズ)

の社説を読む。また CNN,BBC のニュースを観る。事前事後ともこの習慣を継続する。

● **テキスト**

国際関係に関する文献のエッセンスを約 30 配布する

● **参考資料**

ガイダンスにて説明

● **成績評価方法**

出席 50% プレゼンテーション 50%

● **その他留意事項**

自分の頭で考え、多くの文献に精通し、積極的にプレゼンテーションする能力を養う。

アジア中国関係特論

東アジアにおける異文化交流 ―中国文化との接触とその受容―

黄 名時

● 講義概要

本講義では、古代より現代にいたる「中国の文化と社会」を対象とする研究授業を行う。当面は、東アジアの文化の形成に多大な影響を与えた隋唐の文化・文化遺産を複数の分野から多面的に検討し、その文化的特質について理解を深める。

とりわけ、隋唐の圧倒的文化的影響を受けつつ独自の文化を形成した古代日本と日中文化交流史を概観し、日中両者の共通性と独自性にかかわる今日的課題を探究する。

現代中国語の諸文献・古典史料・考古資料の中からテーマ別に題材を取り上げて講義を行う。隋唐と飛鳥・奈良時代の文化財・文化遺産に関連する図録・写真・DVDなどのビジュアル資料も併せて用いる予定である。

「遣隋・遣唐使時代の中国とその文化遺産」をメインテーマに講義するが、「中国大陸から見た日本」「日本人の中国観」「外国人の日本観」などのサブテーマも予定している。授業は受講生の関心対象を考慮して進める。

● 学修到達目標

日本は古くから一衣帯水の中国大陸と密接にかかわりながら発展してきた。この授業では講義と討議をとおして、受講生が中国古代文化の特質について理解を深め、日本古代における中国文化の受容と日中文化交流の歴史を把握することを目標とする。

● 講義計画

1) 唐長安城と奈良平城京 I・II、2) 唐の詩と小説 I・II、3) 玄宗皇帝と楊貴妃 I・II、4) 隋唐墓と副葬品 I・II、5) 隋唐の鏡 I・II、6) 唐鏡と和鏡 I・II、7) 大唐文化の摂取と吸収 I・II、8) 奈良・正倉院に伝わる隋唐の至宝

● 事前事後学習

隋唐の歴史文化について事前に一定の知識を得ておく必要があるため、参考文献に示された資料等を読んでおくことが望まれる。また事後学習として、講義要点の復習のほか、特に文献資料の主題関連項目を再度確認しておくことが求められる。

● テキスト

『遣唐使時代の日本と中国』江上波夫、小学館

『日中交渉史 ―文化交流の二千年―』山口修、東方書店

● 参考資料

『中国文化史大事典』黄名時ほか、大修館書店

《隋唐文化》王仁波、学林出版社

《中华文明之光》(第二辑:唐宋元)袁行霈、北京大学出版社

《古代的中国与日本》汪向荣、三聯書店

『考古学でつづる世界史』『考古学でつづる日本史』藤本強、同成社

《如此日本人》王志強、中央編譯出版社

【日中文化交流史叢書】池田温ほか、大修館書店

『正倉院寶物』NHK、ポニーキャニオン

● 成績評価方法

平常の授業発表と期末レポートで総合的に評価する。

アジア中国社会文化特論 ―東アジアの古代文化遺産―

黄 名時

● 講義概要

水稻栽培と都城造営技術・製紙術などで知られる隣国の中国大陸では、最古の夏王朝の時代からおよそ4000年の間に各地に幾多の王朝が誕生し、特色ある豊かな文化が形成されてきた。それらは互いに影響を与えつつ多様な展開をとげ、世界に冠たる中国文化を育ててきた。そして、日本をはじめ近隣諸国や地域にも絶大な文化的影響を及ぼしていった。

講義では、主として夏から唐に至る歴代の王朝に焦点をあて、それぞれの特色が凝縮された代表的な文化財を時代順に紹介しつつ、時に対比しながら多元的にダイナミックに展開してきた中国古代文化のその特質を講授する。物質文化遺産を中心に講義を行い、遺跡や出土資料など多彩な中国大陸の文物&考古を解説する。中国古代の土器・青銅器・玉器・鉄器・金銀器・貨幣・竹簡木簡・帛書・陶磁器・陶俑・石刻・画像石・仏教彫刻のほか、銅鏡・壁画・建築・建造物などの中から適宜題材を取り上げ、複眼的視座から多角的実証的に検討を加え、文献史料からだけではうかがい知れない各時代の社会活動の実態や都市生活・庶民生活の実像に迫る。

また、日本と大陸文化との繋がり及び対比の観点から、縄文・弥生～飛鳥・奈良時代の文化財も部分的に扱う。古来、日本人が強く恐れ刺激を受けてきた中国文化は、日本文化を生み出した源泉とも言われるが、例えば、奈良・正倉院の宝物と同一主題の中国の文物とを比較してみると、その時代の日本文化の様相やルーツが鮮明に見えてくる。

● 学習到達目標

図版史料のほかに、『中国博物館』『正倉院宝物』等のVTR映像資料を用い、視覚的情報によって中国の歴史文化遺産を身近に感じ、理解しやすいようにしていきたい。

中国と日本の文化財・歴史文化遺産、並びに日本列島の東アジアにおける地理的・文化史的な位置について一定の知識が得られることを目標とする。また、中国の古代文化や文化財についての知識を広げることにより、中国文化理解を深め、併せて学問における研究方法の修得も視野に入れる。

● 講義計画

- 第1週 東アジアの文化財へのいざない
- 第2週 物質文化遺産&学問の方法論
- 第3週 新石器時代の黄河文明と夏王朝(中華の源流と宮廷儀礼)
- 第4週 太古のシルクロード&新疆・小河墓遺跡とその出土文物
- 第5週 殷王朝時代の考古遺跡と出土文物(卜字の出現と青銅彝器)力の王朝
- 第6週 周王朝時代の考古遺跡と出土文物(漢字の流出・伝播と王朝交代&金文)
- 第7週 秦始皇帝の“中華”帝国と華夷秩序
- 第8週 始皇帝の官僚機構制度(遺跡・遺物からの考古学的実証)
- 第9週 漢代の考古遺跡と出土文物(金縷玉衣をまとった王)
- 第10週 中国大陸と縄文・弥生時代の日本列島(稲作の広がりと金属器)
- 第11週 「三国志」時代と卑弥呼の鏡(倭国と邪馬台国)
- 第12週 六朝時代とヤマト王権(和の五王&三角縁神獸鏡と前方後円墳)
- 第13週 遣唐使時代の中国と日本(遣唐使船&日本人留学生の足跡と墓誌)
- 第14週 唐長安城と奈良平城京(国際都市の都城設計と交易品・朝貢品・下賜品)
- 第15週 唐朝工芸と奈良の宝物(正倉院収蔵の中国将来至宝)

● 事前事後学習

過去に習った中国各王朝の歴史とその文化的特色を、事前に復習しておくことが望まれる。また事後学習として、講義要点の復習のほか、参考文献に示した資料の主題関連項目を再度確認しておくことが求められる。

受講生は中国の遺跡を実際に見学できなくても、日本国内各地の博物館・美術館などを訪れ、文物&考古に関する遺物・遺品・文化財・物質文化遺産に触れる機会を自ら見つけることが望まし

い。

中国を直に訪ねるチャンスがある場合には、アプローチの一つとして歴史の舞台を自ら歩いてみる。現地で歴史書の記載の由来を自分の目で確かめ、さらにそこで記録されることのなかった歴史の裏側や史実の痕跡を見出すことができればベストである。

【一度は訪れたい御薦め中国博物館】 陝西省歴史博物館、中国国家博物館

● **テキスト**

毎回の講義時に資料を配布する。

● **参考資料**

『中国文化史大事典』 黄名時ほか 大修館書店

『中国文明の謎 ―中国四千年の始まりを旅する』 NHK「中国文明の謎」取材班編著 NHK 出版

『中国考古学概論』 飯島武次 同成社

『「破鏡(重圓)」の伝承とその習俗 ―漢六朝隋唐の副葬半折鏡―』 黄名時 名古屋学院大学外国語学部論集 6-2

『考古学でつづる世界史』『考古学でつづる日本史』 藤本強 同成社

「長安古橋交流文物展 図版解説」黄名時訳 香川県瀬戸大橋架橋記念博覧会協会『長安古橋交流文物展』図録カタログ

「隋唐時代の鏡文化 ―銘文鏡の特徴とその盛衰をめぐる―」黄名時 名古屋学院大学論集 言語・文化篇 25-2

● **成績評価方法**

出席と討議およびレポート成績で総合的に評価する。

● **その他留意事項**

必ず出席し、就活や通院などの事情がある場合は、事前に連絡をしてください。

国際移民特講

佐竹 眞明

● 講義概要(目的と内容・方法)

本研究では、国際移民の特質を考えていく。日本における移民の諸問題を考えていく。日本の移民の特質、特徴、を概観した後、国際結婚を取り上げる。

● 学修到達目標

日本の移民の特質が理解できる。

日本の国際結婚の特質が理解できる。

● 講義計画

第1週 日本の移民の概況①(教員講義)

第2週 同②(教員講義)

第3週 移民問題の先駆的事例 在日韓国・朝鮮人 ①(教員講義)

第4週 同② DVD 視聴

第5週 移民問題の事例 在日フィリピン人①(教員講義)

第6週 同②DVD 視聴

第7週 国際結婚 概況① (教員講義)

第8週 同 ② DVD 視聴

第9週 日中結婚 (学生発表)

第10週 日比結婚(学生発表)

第11週 日韓結婚(学生発表)

第12週 国際結婚で生まれる子ども(学生発表)

第13週 日中結婚で生まれた子ども(学生発表)

第14週 日比結婚で生まれた子ども(学生発表)

第15週 国際結婚 まとめ

● 事前事後学習

教科書を読むこと

● テキスト

佐竹眞明 金愛慶『国際結婚と多文化共生—多文化家族の支援にむけて』明石書店、2017

● 参考資料

● 成績評価方法

発表 CCSレポートを総合評価

● その他留意事項

スケジュールは学生の出身地によって、変えることがあります。

国際文化特論

張 勤

● 講義概要(目的と内容・方法)(Course Description: Purpose, Content and Method)

グローバルが進むこんにちにおいて、社会構成員の行動様式と生活様式を規制するそれぞれの社会の固有文化は、地域や国の境界を超えて、お互いに干渉し合い、共存する方向へと進んでいます。国際的な視野から、民族、宗教、移民、言語などに関わる文化事象を観察する際に、異文化共存の視点も極めて重要なものとなります。

この講義は、このような視点から、特に言語に関わる文化事象として翻訳を取り上げ、翻訳の実際と可能性を通して、異文化共存のあり方について考えていき、そこに存在する問題を把握し、認識を深めることを目的とします。

講義は、全員で関係論文を読み、履修者分担で論点の分析と見解を発表し、全員でディスカッションを行う、という形で行います。初回の講義で、メンバーの状況を確認した上で、スケジュールを決めます。

● 学修到達目標(Aim of This Course)

グローバル化が進む中、異なる文化が如何に干渉し合うことについて認識を深めている。

異文化コミュニケーションの可能性と問題点について理解を深めている。

異文化コミュニケーションにおける翻訳の可能性と問題点について理解を深めている。

● 講義計画(Course Schedule)

第1回(第1週) オリエンテーション・講義の進め方・スケジュール

第2回(第1週) 翻訳の国際文化的な側面

第3回(第2週) (論文研究) 文学翻訳における言語の問題について(1)

第4回(第2週) (論文研究) 文学翻訳における言語の問題について(2)

第5回(第3週) (論文研究) 文学作品の翻訳に見る異文化伝達法(1)

第6回(第3週) (論文研究) 文学作品の翻訳に見る異文化伝達法(2)

第7回(第4週) (論文研究) コーパスに見る中日翻訳における「明示化」の特徴(1)

第8回(第4週) (論文研究) コーパスに見る中日翻訳における「明示化」の特徴(2)

第9回(第5週) (論文研究) 相互行為としてのメディア翻訳(1)

第10回(第5週) (論文研究) 相互行為としてのメディア翻訳(2)

第11回(第6週) (論文研究) 法廷証言における日本語独特の表現とその英訳の等価性の問題(1)

第12回(第6週) (論文研究) 法廷証言における日本語独特の表現とその英訳の等価性の問題(2)

第13回(第7週) (論文研究) 翻訳研究における「等価」言説(1)

第14回(第7週) (論文研究) 翻訳研究における「等価」言説(2)

第15回(第8週) ディスカッション・まとめ

● 事前事後学習(Preparation & Review)

講義の予習と復習は、授業の二倍の時間が必要です。

講義の前に論文を読んでおき、内容について自分の考えをまとめてから講義に臨んでください。

講義終了後、示された課題について調べ、考えをまとめてください。

● テキスト(Required Textbooks)

初回の講義で論文のプリントを配布します。

● **参考資料(References)**

明石元子・Hadley James 著名翻訳家・テキスト分析・可視性概念—村上春樹にみる同化・異文化論の進展—『通訳翻訳研究』14.

篠原有子 本映画の英語字幕における訳出要因について—制作プロセスと視聴者に着目して『通訳翻訳研究』14.

新崎隆子・石黒弓美子 日本語発話の解釈:CMM 理論の日英通訳指導への応用『通訳翻訳研究』12.

平子義雄 翻訳の原理—異文化をどう訳すか、大衆館書店.

古川弘子 女ことばと翻訳『通訳翻訳研究』13.

牧野成一 日本語を翻訳するということ—失われるもの、残るもの(中公新書).

矢田陽子 言語表象文化と翻訳—『たそがれ清兵衛』英語・スペイン語映像翻訳の記号学的考察—『メディア・英語・コミュニケーション』3巻1号.

山本一晴 多文化共生施策における行政情報の多言語化『通訳翻訳研究』11.

山本史郎 翻訳の授業 東京大学最終講義(朝日新書).

● **成績評価方法(Course Evaluation Methods)**

論文研究発表・講義参加(50%)

期末課題レポート(25%)

事前事後学習(25%)

● **その他留意事項(Other Matters)**

講義では積極的に思索し、発言してください。欠席はしないこと。

日本文化特論

鹿毛 敏夫

● 講義概要

日本の文化は、周辺のアジア諸国・諸地域との接触のなかで育まれてきた。日本と日本人の歴史文化を考えるうえでアジアとの交流と相互影響の考察は欠かせない視点であり、現代の複雑な国際関係を理解するためにも、過去のアジア交流についての正確な理解が必要である。本講義では、前近代における日本とアジア諸国・諸地域との文化交流の歴史を東アジアから東南アジアにまたがる環シナ海文化圏の広がりの中で考察・理解する。

● 学修到達目標

前近代における日本とアジア諸国・諸地域との文化交流の歴史を理解し、アジア世界における日本文化の位置づけを史的背景のもとに考察・説明することができる。

● 講義計画

- 第1週 日本文化と唐・宋・元
- 第2週 室町文化と中華
- 第3週 日明関係
- 第4週 守護大名の遣明船派遣
- 第5週 遣明船と倭寇
- 第6週 遣明船は何を運んだか
- 第7週 九州産硫黄の爆売り
- 第8週 硫黄産地の社会構造
- 第9週 「サルファーラッシュ」から「シルバーラッシュ」へ
- 第10週 渡来「唐人」の活動
- 第11週 「唐人」仏師と豊臣政権
- 第12週 中世社会の唐人文化
- 第13週 九州大名の東南アジア外交
- 第14週 南蛮文化
- 第15週 アジアのなかの日本文化

● 事前事後学習

各回での学習事項を復習し、次回のテーマについてテキストを読んで予習をしてくる。発表者はプレゼンテーション資料を適切にまとめること。

● テキスト

鹿毛敏夫著『アジアのなかの戦国大名—西国の群雄と経営戦略—』吉川弘文館、2015

● 参考資料

羽田正著『新しい世界史へ—地球市民のための構想—』岩波書店、2011

村井章介著『増補中世日本の内と外』筑摩書房、2013

● 成績評価方法

平常点70% (課題発表40% ディスカッション30%)、レポート30%

国際言語教育特論

Ikumi Imani
今仁 生美

● 講義概要

この講義では、国際化が進む現代社会の中で不可欠の要素となっている言語教育の理論と実践を学び、実際の場面において高度な技術力を伴った言語教育を行うことができる能力を養うことを目的とする。さらに、現在の日本で行われている日本語教育の現状や問題を取り上げそれらの考察・分析を行う。特に問題点に関してはその解決法について受講生と共に考えていく。

日本における日本語教育は手探り状態で始まったが、現在は、日本語を含む言語教育に関する方法論も開発されつつある。こういった状況を踏まえて、講義を以下のように進めていく予定である。まず言語教育の基本理論(特に教授法)を学んだ上で、日本に加えアジア、欧米などでの海外での日本語教育について調査を行い(これは学生の課題としそれに基づき)議論を行う。次いで、実際に日本語を教授する際の技術を学ぶために、日本語初級・中級・上級者を対象とした言語教育についてそこに見られる問題点を学生と探る。学生は、前半で学んだ教授法を用いた授業を実際に教室内で行うことで実践力を身につける。

● 学修到達目標

日本語教育の現状を把握すると共に、日本語教育の方法論の基本を理解し、関連する論文を十分に読みこなす力をつけることを目標とする。

● 講義計画

- 第1週 導入
- 第2週 言語教育概論1
- 第3週 言語教育概論2
- 第4週 言語教育概論3
- 第5週 言語教育概論4
- 第6週 言語教育概論5
- 第7週 海外における日本語教育1
- 第8週 海外における日本語教育2
- 第9週 日本語初級者に対する言語教育1(デモによる実践)
- 第10週 日本語初級者に対する言語教育2(デモによる実践)
- 第11週 日本語初級者に対する言語教育3(デモによる実践)
- 第12週 日本語中級者に対する言語教育1(デモによる実践)
- 第13週 日本語中級者に対する言語教育2(デモによる実践)
- 第14週 日本語上級者に対する言語教育3(デモによる実践)
- 第15週 総括

①学修を進めるうえで重要なポイント

データを単に集めるのではなく、体系的に、かつ、説明的に資料を作成すること

②課題と提出期限

課題はほぼ毎回課す。提出は翌週の授業時に行う。

③課題の取り組み方

関連する本や論文をなるべく多く読み、実践に実際に役に立つ資料を作るよう心掛けること

④ 試験

課題を試験の代わりとする。

● 事前事後学習

授業の実践を中心に行うため、事前に何度も自分で授業のプレゼンテーションを練習しておいてほしい。授業後は、授業中に指摘されたことなどを整理・理解し、次のよりよいプレゼンテーションにつなげていくこと。

● テキスト

テキストは、授業開始後、必要に応じて指定する。またコピーも授業中に配布する。

● 参考資料

授業中に適宜参考資料を提示する。また、関連資料のプリントも配布する。

● 成績評価方法

出席50%、および、レポート(課題)と授業への参加貢献度50%

日本語教授法特論

Ikumi Imani
今仁 生美

● 講義概要

この講義では、日本語を日本語学習者に教える際の技術を学ぶことを主な目的とする。

日本語を母語とする者が日本語を教えるのは思いのほか難しいことが多い。そのため授業で用いる配布資料の質を高め、効果的な授業を実施することができるようにする必要がある。本講義では、このような背景を踏まえ、日本語教授法の基礎を解説した後、テキスト研究を集中的に行う。その後、授業で配布する資料を受講生が実際に作成し、それに関して具体的な指導を行う。最後に、授業を実際に行う場面を設け(受講生による実践)、教授方法に対する技術指導を行う。

● 学修到達目標

日本語の言語学的な基本を把握し、また、日本語を現場で教授する際の基本的な技術を身に着けることを目標とする。

● 講義計画

- 第1週 導入
- 第2週 日本語教授法概論1
- 第3週 日本語教授法概論2
- 第4週 テキスト研究1
- 第5週 テキスト研究2
- 第6週 テキスト研究3
- 第7週 授業配布資料作成実践(初級用)
- 第8週 授業配布資料作成実践(初級用)
- 第9週 授業配布資料作成実践(初級用)
- 第10週 授業配布資料作成実践(中級用)
- 第11週 授業配布資料作成実践(中級用)
- 第12週 授業配布資料作成実践(上級用)
- 第13週 教授実践指導
- 第14週 教授実践指導
- 第15週 教授実践指導

①学修を進めるうえで重要なポイント

データを単に集めるのではなく、体系的に、かつ、説明的に資料を作成すること

②課題と提出期限

課題はほぼ毎回課す。提出は翌週の授業時に行う。

③課題の取り組み方

関連する本や論文をなるべく多く読み、実践に実際に役に立つ資料を作るよう心掛けること

④試験

課題を試験の代わりとする。

● 事前事後学習

授業配布資料作成をほぼ毎回行うことになる。「分かりやすさ」と正確さを目指して作成してほしい。授業の後は、自分が作成した資料で不足していた点などを必ず補っておくこと。

● **テキスト**

テキストは、授業開始後、必要に応じて指定する。またコピーも授業中に配布する。

● **参考資料**

授業中に適宜参考資料を提示する。また、関連資料のプリントも配布する。

● **成績評価方法**

出席50%、および、レポートと授業への参加貢献度50%

ジェンダー文化特論

佐伯 奈津子

● 講義概要

本講義は、性にまつわるさまざまな問題を、政治・社会・経済・歴史・文化・宗教などの観点から学ことで、ジェンダーをめぐる議論がどのように変化(発展)したのかを理解しようとするものである。

先天的・身体的・生物学的に個体が具有する性別(セックス)に対し、生物学的男性・女性にふさわしいと考えられている役割・思考・行動など社会的・文化的に形成された性別をジェンダーという。

性をめぐる理論化と運動のなかで、ジェンダーの観点が用いられるようになったのは、1960年代以降、国際的に展開された第二波フェミニズム(女性解放思想)においてである。それまでの女性の参政権や財産権を求める第一波フェミニズムに対し、第二波フェミニズムでは、家族という私的領域の問題としてあつかわれてきた問題こそが重要なのだと指摘された。

性をめぐる権力関係、性的分業、性と生殖に関する自己決定権、女性に対する暴力などの問題を認識・分析するため、ジェンダーの視点を取り入れられるようになり、さらに人種・階級・年齢など複数のアイデンティティを組み合わせる(インターセクショナルリティ)ことで、差別や抑圧を明らかにしようとする第三波・第四波フェミニズムへとつながっている。

本講義では、ジェンダーと暴力に関する具体的な事例を取り上げながら、ジェンダー・ギャップ(男女格差)、差別や抑圧の実態と、それらをなくそうとする取り組みについて、ともに考えたい。

● 学修到達目標

- ・ジェンダーの視点を理解し、性にまつわる「あたりまえ」を問い直す姿勢を身につける。
- ・フェミニズムが女性解放にとどまらず、支配をなくし、人があるがままの自分で、平和に暮らせるよう解放されることをめざす理論と実践だと理解する。
- ・ジェンダー・ギャップを小さくするための解決策を提案し、行動に移す。

● 講義計画

第1週 オリエンテーション

第2週 World Gender Gap Report を読む① 中央アジア、東アジア・太平洋、ヨーロッパ

第3週 World Gender Gap Report を読む② ラテンアメリカ、中東・北アフリカ、北アメリカ

第4週 World Gender Gap Report を読む③ 南アジア、サブサハラ・アフリカ

第5週 宗教とジェンダー① イスラームは女性に抑圧的な宗教か

第6週 宗教とジェンダー② (院生の発表)キリスト教、仏教、神道

第7週 宗教とジェンダー③ (院生の発表)ヒンドゥー教、ユダヤ教

第8週 文化とジェンダー① 女性器切除か女子割礼か

第9週 文化とジェンダー② (院生の発表)

第10週 文化とジェンダー③ (院生の発表)

第11週 フェミニズムの歴史

第12週 ジェンダーを理解するキーワード① 家父長制、植民地主義

第13週 ジェンダーを理解するキーワード② マイクロ・アグレッション、インターセクショナルリティ

第14週 (院生の発表)修士論文にジェンダーの視点を加える①

第15週 (院生の発表)修士論文にジェンダーの視点を加える②

● 事前事後学習

事前学習では、テキストを読み、概要・疑問点をまとめる。

事後学習では、自身の研究テーマにひきつけて、論点を整理する。

● **テキスト**

受講生の研究テーマに応じて、講義時に提示する。

● **参考資料**

ベル・フックス(2020)『フェミニズムはみんなのもの——情熱の政治学』エトセトラブックス

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同(2019)『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための29問』

加藤秀一(2017)『はじめてのジェンダー論』有斐閣

● **成績評価方法**

受講態度(発表・ディスカッション)70%、期末レポート30%

● **その他留意事項**

発表・ディスカッションに備えて、事前学習を十分におこなうこと。

宗教・思想・文化特論

神山 美奈子

● 講義概要

本講義は、本学の建学の精神である「敬神愛人」を深く学び、その背景にある聖書の基本的な知識（キリスト教の神、聖書、礼拝、祈り、信条、死生観、フェミニズム、人権問題や多様性の捉え方など）について学びます。聖書を読み、その時代背景や思想的背景を知った上で疑問に思うことを共有し、聖書が何を語ろうとしているのかを共に考えます。

● 学修到達目標

キリスト教の基本的な知識を習得し、宗教間対話、宗教思想、宗教における平和について理解することができる。

● 講義計画

- 第1回 ガイダンス：宗教（キリスト教）を学ぶ意義
- 第2回 建学の精神を学ぶ：「神」と「敬神」
- 第3回 建学の精神を学ぶ：「愛」と「隣人愛」
- 第4回 建学の精神を学ぶ：創立者と思想
- 第5回 聖書に関する基本的な知識
- 第6回 讃美歌とキリスト教会
- 第7回 礼拝と祈り
- 第8回 信条、洗礼、聖餐
- 第9回 中間確認レポート
- 第10回 発表 イエスの生涯：クリスマス（降誕）
- 第11回 発表 イエスの生涯：十字架（贖罪）
- 第12回 発表 イエスの生涯：イースター（復活）
- 第13回 発表 イエスの生涯：ペンテコステ（弟子）
- 第14回 宗教間対話と平和思想
- 第15回 授業総括

● 事前事後学習

- ①教科書である「聖書」に親しみを持つためにも聖書をよく読むこと。受講前には該当箇所を目を通し、受講後には学んだ部分を再度読み返すこと。
- ②毎週火曜日・木曜日に行われるチャペルアワー出席、その他クリスマス礼拝など特別な礼拝に積極的に出席すること。

● テキスト

『聖書(新共同訳)』日本聖書協会（翻訳は口語訳や協会共同訳でも良い）

● 参考資料

『現代を生きるキリスト教-もうひとつの道から』芦名定道・土井健司・辻学、教文館、2012年

『現代神学の冒険』芦名定道、信教出版社、2020年

『キリスト教って何なんだ?』上馬キリスト教会ツイッター部、ダイヤモンド社、2022年（第3刷）

『メソジストって何ですか-ウェスレーが私たちに訴えること』清水光雄、教文館、2007年

● **成績評価方法**

講義への主体的参加、発表、発言 60点、期末レポート 40点

● **その他留意事項**

なし

研究方法論

佐竹 眞明

● 講義概要

国際文化協力専攻の修士課程に入学した諸君は所定の授業を履修し、さらに、修士論文を執筆しなければならない。共通科目、国際文化、国際文化協力の分野において、学問を深め、自分の関心に基づいて修士論文を執筆する。このように、学部を修了した諸君は専門の研究に入っていくこととなる。

この授業では研究のスタートにたった諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。今年度は梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013)を用いながら、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していく。また、受講生に研究計画を報告してもらい、研究方法上の助言を提供する。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

教科書『研究ってなんだろう』の「はじめに」を読んでおいてください。

● 講義計画

- 第1週 プロローグ 自己紹介 授業の進め方説明
- 第2週 ・テキスト第1章 研究について考えよう—準備編 1節 研究って何だろう
- 第3週 2節 研究の全体像をつかもう
- 第4週 3節 研究を始めるために準備しよう
- 第5週 第2章 研究を進めよう—実践編 1節 研究テーマを決める
- 第6週 2節 先行研究のレビュー
- 第7週 3節 研究計画を立てる
- 第8週 同
- 第9週 受講生による研究計画 発表
- 第10週 同
- 第11週 4節 調査の実施
- 第12週 5節 分析・考察
- 第13週 6節 論文としてまとめる
- 第14週 7節 実践につなげる
- 第15週 予備(授業内容に関するシェアリング)

● テキスト

梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013) 定価本体 1500 円＋税 丸善にて購入し、授業初回に持参すること。

参考書

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000

甲斐田万智子・佐竹眞明・長津一史・幡谷則子編著『小さな民のグローバル学—共生の思想と実践を求めて』上智大学出版、2016.

佐竹眞明編著『国際結婚と多文化共生—多文化家族への支援』、明石書店、2017

● **成績評価方法**

授業への参加度を重視する。レポート。

国際文化協力特別研究 I (日本歴史・文化)

鹿毛 敏夫

● 演習概要(研究テーマ:日本の歴史・文化の研究)

日本の歴史の展開過程を総合的に考察するとともに、特に日本史特有の「武家社会」の特質を取りあげて、その文化的背景とともに合理的に理解する。また、歴史文学作品を講読して、その正確な内容理解に努めるとともに、史実に沿った批判的考察を進め、時代の認識や捉え方について議論を深める。演習を通して、論理的思考力を培い、みずから史料を分析・考察して歴史研究を進める技術と能力を高める。

● 学修到達目標

日本史の史的展開過程における「武家」の時代の特質を理解するとともに、日本の歴史と文化への関心を深め、先行研究を踏まえながら自身の論文執筆への明確な意識を獲得することを目標とする。

● 演習計画

前期)	後期)
第 1-2 週 日本史研究の対象	第 1-2 週 文献講読⑤「交易」
第 3-4 週 時代の変遷と特徴	第 3-4 週 文献講読⑥「異宗教」
第 5-6 週 武家社会の特質	第 5-6 週 文献講読⑦「水軍」
第 7-8 週 文学から史実を読み取る	第 7-8 週 文献講読⑧「京都」
第 9-10 週 文献講読①「武士」	第 9-10 週 文献講読⑨「豪商」
第 11-12 週 文献講読②「戦国」	第 11-12 週 文献講読⑩「九州」
第 13-14 週 文献講読③「南蛮」	第 13-14 週 日本の歴史・文化の特質
第 15 週 文献講読④「異文化」	第 15 週 演習の総括

● 事前事後学習

テキストを事前に講読し、不分明な歴史事象について調べておくとともに、毎回の講義で学習した内容を復習し、再確認しておく必要がある。

● テキスト

安部龍太郎著『宗麟の海』NHK出版、2017年

● 参考資料

村井章介著『世界史のなかの戦国日本』筑摩書房、2012年

鹿毛敏夫著『大航海時代のアジアと大友宗麟』海鳥社、2013年

静永健編『東アジア海域に漕ぎだす 6 海がはぐくむ日本文化』東京大学出版会、2014年

● 成績評価方法

授業時の発表・討議と課題レポートで総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅰ（中国言語・文化）

黄 名時

● 演習概要(研究テーマ:中国の言語文化へのアプローチ)

本研究の前半は、中国の言語文化を対象とする研究方法論を説く。研究手法の導入として、研究テーマの設定、研究上の問題点、基本文献の渉猟、資料の扱い方、史料の評価について講義する。

後半は、個々の受講生の関心ある特定テーマや文化領域に沿って、関連する中国語および日本語の文献史料・調査報告書・学術論文等を提示するとともに、演習形式でこれを講読していく。受講生にそれぞれ課題について分担報告や発表をしてもらい、討議を重ねていく。授業時に、当該領域の関連文献や基礎資料を紹介しながら研究指導を進める。

● 学修到達目標

受講生のテーマに基づく研究指導と演習を行うなかで、各自が先行研究をきちんと咀嚼し、自分の研究論文が書けるレベルにまで高めることを目標とする。

● 演習計画

- 第1週 中国の言語文化の対象
- 第2週 研究方法
- 第3週 研究テーマの設定
- 第4週 研究上の問題点
- 第5週 基本文献の探し方
- 第6週 資料の扱い方
- 第7週 史料などの評価
- 第8週 文献講読①
- 第9週 文献講読②
- 第10週 文献講読③
- 第11週 文献講読④
- 第12週 文献講読⑤
- 第13週 文献講読⑥
- 第14週 文献講読⑦
- 第15週 演習の総括

● 事前事後学習

参考文献に示した資料等を事前に自習しておくとともに、毎回の講義で学習した主題を復習し、重要点を再度確認しておく必要がある。

また各自、疑問点を整理して、次回の授業時に質問できるようにしておくことが求められる。

● テキスト

教室で指示する。

● 参考資料

- 『中国文化史大事典』黄名時ほか、大修館書店
- 『アジア歴史研究入門 中国』島田虔次、同朋社
- 『中国史研究入門』山根幸夫、山川出版社
- 【中国文化叢書】高木正一ほか、大修館書店

● **成績評価方法**

授業時の発表・討議と課題レポートで総合的に評価する。

国際文化協力特別研究 I(国際移民・文化)

佐竹 眞明

● 演習概要

国際文化協力専攻の修士課程に入学した諸君は所定の授業を履修し、さらに、修士論文を執筆しなければならない。共通科目、国際文化、国際文化協力の分野において、学問を深め、自分の関心に基づいて修士論文を執筆する。このように、学部を修了した諸君は専門の研究に入っていくこととなる。

この授業では研究のスタートにたった諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。今年度は梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013)を用いながら、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していく。また、受講生に研究計画を報告してもらい、研究方法上の助言を提供する。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

教科書『研究ってなんだろう』の「はじめに」を読んでおいてください。

● 演習計画

- 第1週 プロローグ 自己紹介 授業の進め方説明
- 第2週 テキスト第1章 研究について考えよう—準備編 1節 研究って何だろう
- 第3週 2節 研究の全体像をつかもう
- 第4週 3節 研究を始めるために準備しよう
- 第5週 第2章 研究を進めよう—実践編 1節 研究テーマを決める
- 第6週 2節 先行研究のレビュー
- 第7週 3節 研究計画を立てる
- 第8週 同
- 第9週 受講生による研究計画 発表
- 第10週 同
- 第11週 4節 調査の実施
- 第12週 5節 分析・考察
- 第13週 6節 論文としてまとめる
- 第14週 7節 実践につなげる
- 第15週 予備(授業内容に関するシェアリング)

● テキスト

梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013) 定価本体 1500 円＋税 丸善にて購入し、授業初回に持参すること。

● 参考書

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000

甲斐田万智子・佐竹眞明・長津一史・幡谷則子編著『小さな民のグローバル学—共生の思想と実践を求めて』上智大学出版、2016.

佐竹眞明編著『在日外国人と多文化共生—地域コミュニティの視点から』、明石書店、2011

● **成績評価方法**

授業への参加度を重視する。レポート。

国際文化協力特別研究 I (西洋思想・文化)

鈴木 啓司

● 演習概要(研究テーマ:フランス現代事情)

Le Monde, Le Point, France2 など、新聞、雑誌、テレビニュースなどを通して、フランスの現代事情を探ってゆく。さらには、常に世界の哲学思想界をリードするフランスの現代思想にも触れてみる。そのため、フランス語を解することが本科目を受講する絶対条件である。

● 学修到達目標

物事の表面だけに止まらず、その本質を深く探る抽象思考を身につけること。フランスは哲学を最も重んじる国でもある。そのうえで、説得的な学術論文を書くために必要な論理とデータ処理を学んでもらいたい。

● 演習計画

前期	後期
第1週 ガイダンス	第1週 研究計画確認
第2週 問題提起と討論	第2週 問題提起と討論
第3週 小論文	第3週 小論文
第4週 問題提起と討論	第4週 問題提起と討論
第5週 小論文	第5週 小論文
第6週 発表と討論	第6週 発表と討論
第7週 問題提起と討論	第7週 問題提起と討論
第8週 小論文	第8週 小論文
第9週 発表と討論	第9週 発表と討論
第10週 問題提起と討論	第10週 問題提起と討論
第11週 小論文	第11週 小論文
第12週 発表と討論	第12週 発表と討論
第13週 発表と討論	第13週 発表と討論
第14週 発表と討論	第14週 発表と討論
第15週 発表と討論	第15週 発表と討論

● 事前事後学習

とにかくフランス語の能力を磨くことに励んでほしい。

● テキスト

講義時に適宜配布する。

● 成績評価法

受講態度50% 小論文と発表50%

国際文化協力特別研究 I (国際政治・文化)

増田 あゆみ

● 演習概要(研究テーマ:国際政治学研究)

本研究は、国際政治学を主とし、国際社会における現象を政治学の視座で、分析し、考察することを主たる目的とする。

研究の前半では、国際政治学の基本を基本的文献の講読、および議論をすることによって、熟知することに務める。研究の手法についても、この基本の修得に沿って、順次、研究テーマの設定、研究の方法論の検討等を考察していく。研究の後半においては、個々の受講生の研究テーマの設定、および、研究の経過報告を中心に、受講生間での議論を中心に、修士論文の指導を行う。

● 学修到達目標

受講生の研究テーマに基づいた実証的な研究を積み上げることができるようになること。

● 演習計画

前期	後期
1) 国際政治学について	1) 研究テーマの確認
2) 研究テーマの設定について	2) 報告と議論
3) 報告と議論	3) 指導
4) 指導	4) 研究テーマの確認
5) 報告と議論	5) 報告と議論
6) 指導	6) 指導
7) 報告と議論	7) 研究テーマの確認
8) 指導	8) 報告と議論
9) 報告と議論	9) 指導
10) 指導	10) 研究テーマの確認
11) 報告と議論	11) 報告と議論
12) 指導	12) 指導
13) 研究テーマの検討	13) 研究テーマの再検討
14) 研究テーマの検討	14) 指導
15) 総括	15) 総括

● 事前事後学習

事前においては、毎回の講義時に使用する文献の予習、事後においては、講義内容の復習を行うこと。

● テキスト

『国際関係論入門 : 思考の作法』 初瀬隆平編著、法律文化社 2012年

● 参考資料

適宜、指示する。

● 成績評価方法

受講態度および修士論文において総合的に評価する。

国際文化協力特別研究 I (ドイツ文学・文化)

山本 淑雄

● 演習概要:ドイツ文学研究

ドイツ語圏の言語文化研究をテーマとして講義する。ドイツ文学への理解を深めながら、受講生が研究テーマを確立し、必要な文献を渉猟し、学術論文が作成できるよう指導していく。講義の後半ではテキストとして、ドイツ・ロマン主義の詩人ノヴァーリスの代表作《Heinrich von Ofterdingen》(邦訳名『青い花』)を精読し、ロマン主義の理念を理解するとともに、歴史的問題点にも視野を広げ、研究テーマ確立の一助とする。

● 学修到達目標

ドイツ語の文献を読解し、研究者としての基盤を確立する。

● 演習計画

- 1)ドイツ文学の世界 2)古典主義とロマン主義 3)ドイツ理想主義
- 4)ドイツ文学におけるゲーテ 5)ゲーテとシラー 6)フランス革命の影響
- 7)フィヒテ哲学 8)ノヴァーリスの生涯 9)死と再生 10)秘儀としての恋
- 11)研究テーマの確認 12)文献渉猟 13)研究発表① 14)研究発表②
- 15)総括

● 事前事後学習

事前にテキストを熟読しておくこと。

● テキスト

Novalis: Heinrich von Ofterdingen (Reclam)

● 参考資料

授業時に紹介する。

● 成績評価方法

授業時の発表や課題レポートを基に総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ（日本歴史・文化）

鹿毛 敏夫

● 演習概要（研究テーマ：日本の歴史・文化の研究）

日本の歴史の展開過程を総合的に考察し、その文化的背景とともに合理的に理解する。また、史実に沿った批判的考察を進め、時代の認識や捉え方について議論を深める。演習を通して、論理的思考を深め、みずから史料を分析・考察して歴史研究を進め、その成果を修士論文としてまとめる。

● 学修到達目標

日本の歴史と文化に関する先行研究を踏まえ、論理的思考を積み上げて、自身の修士論文を執筆・完成させることを目標とする。

● 演習計画

前期)	後期)
第 1-2 週 研究主題の策定	第 1-2 週 史料の読み込みと解釈③
第 3-4 週 研究の構想	第 3-4 週 史料の位置づけと評価①
第 5-6 週 研究課題の抽出	第 5-6 週 史料の位置づけと評価②
第 7-8 週 先行研究の批判的考察①	第 7-8 週 史料群の有機的結び付け①
第 9-10 週 先行研究の批判的考察②	第 9-10 週 史料群の有機的結び付け②
第 11-12 週 先行研究の批判的考察③	第 11-12 週 論理的思考の展開
第 13-14 週 史料の読み込みと解釈①	第 13-14 週 著述の修正と加筆
第 15 週 史料の読み込みと解釈②	第 15 週 研究の総括

● 事前事後学習

先行研究を事前に講読して問題点を抽出し、論証に必要な歴史史料を熟読して解釈・評価しておく必要がある。事後には、成果と課題を整理し、論証過程を文章化しておく必要がある。

● テキスト

適宜提示する。

● 参考資料

佐藤信編『古代史講義』筑摩書房、2018年
高橋典幸・五味文彦編『中世史講義』筑摩書房、2019年

● 成績評価方法

授業時の発表・討議と修士論文で総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ（中国言語・文化）

黄 名時

● 演習概要（研究テーマ：中国古今の言語文化へのアプローチ）

本研究の前期では、「国際文化協力特別研究Ⅰ」につづいて修士論文作成のための演習を行っていく。

オリジナルな論文を執筆するためには、その分野における新しい視点での独創性・創意性が要求されるため、テーマの決定にあたっては先行研究をしっかりと咀嚼した上で何が書けるのかを考える必要がある。授業では、受講生の各自設定したテーマと研究計画に従って関連資料の調査方法・分析方法および研究方法についてその手順を説く。

つづいて受講生にそれぞれ自分の研究テーマに基づく研究経過報告をしてもらおうとともに、当該分野の文献史料と学術論文を講読・分析し、討議を重ねる。授業中に随時、必要文献を指示する。

後期からは、特に修士論文の完成に向けた論文指導を集中的に進めていく。

● 学修到達目標

作成された論文が、先行研究を把握した上で、適切な分析を行い、妥当な結論に達し、且つ論理的な構成を具えたものにすることを目標とする。

● 演習計画

1) 論文テーマの決定Ⅰ・Ⅱ、2) 関連資料の調査方法Ⅰ・Ⅱ、3) 関連資料の分析方法Ⅰ・Ⅱ、4) 研究の手順Ⅰ・Ⅱ、5) 研究経過報告Ⅰ・Ⅱ、6) 文献史料講読Ⅰ・Ⅱ、7) 学術論文講読Ⅰ・Ⅱ、8) 論文指導①、9) 論文指導②、10) 論文指導③、11) 論文指導④、12) 論文指導⑤、13) 論文指導⑥、14) 論文指導⑦、15) 演習の総括

● 事前事後学習

「国際文化協力特別研究Ⅰ・Ⅱ」の参考文献に示した資料等を事前に自習し、毎回の講義で学習した要点を再度確認しておく必要がある。また各自、疑問点を整理して、次回の授業時に質問できるようにしておくことが求められる。

● テキスト

田中比呂志・飯島渉『中国近現代史研究のスタンダード』研文出版

● 参考資料

潘樹廣・松岡栄志『中国学レファレンス事典』凱風社

橋本萬太郎『民族の世界史5 漢民族と中国社会』山川出版社

溝口雄三『方法としての中国』東京大学出版会

溝口雄三『中国の衝撃』東京大学出版会

● 成績評価方法

演習時の発表・討議と、執筆論文の内容で評価する。

国際文化協力特別研究 II(国際移民・文化)

佐竹 眞明

● 演習概要

この授業では研究の途についた諸君が修士論文を執筆するために身につけなければならない思考方法、倫理などについて、検討していく。独自の思考に基づき、独創性を持ち、説得力を持ち、論文を組み立てる必要がある。今年度は梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013)を用いながら、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していく。また、受講生に研究計画を報告してもらい、研究方法上の助言を提供する。そして、修士論文を執筆してもらう。

● 学修到達目標

- ・受講生は自分の研究の意義、目的を説明できることができる。
- ・受講生は研究方法の基礎を習得する。
- ・受講生は修士論文を執筆する基本的な方法を習得する。

● 事前事後学習

教科書『研究ってなんだろう』の「はじめに」を読んでおいてください。

● 演習計画

- 第1週 プロローグ 自己紹介 授業の進め方説明
- 第2週 テキスト第1章 研究について考えよう—準備編 1節 研究って何だろう
- 第3週 2節 研究の全体像をつかもう
- 第4週 3節 研究を始めるために準備しよう
- 第5週 第2章 研究を進めよう—実践編 1節 研究テーマを決める
- 第6週 2節 先行研究のレビュー
- 第7週 3節 研究計画を立てる
- 第8週 同
- 第9週 受講生による研究計画 発表
- 第10週 同
- 第11週 4節 調査の実施
- 第12週 5節 分析・考察
- 第13週 6節 論文としてまとめる
- 第14週 7節 実践につなげる
- 第15週 予備(授業内容に関するシェアリング)

● テキスト

梅野潤子著『研究ってなんだろう—はじめて取り組むあなたのための論文作成ノート』(高管出版、2013) 定価本体 1500 円+税 丸善にて購入し、授業初回に持参すること。

● 参考書

小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000

甲斐田万智子・佐竹眞明・長津一史・幡谷則子編著『小さな民のグローバル学—共生の思想と実践を求めて』上智大学出版、2016.

佐竹眞明編著『在日外国人と多文化共生—地域コミュニティの視点から』、明石書店、2011

● 成績評価方法

授業への参加度を重視する。及び研究計画の発表。

国際文化協力特別研究Ⅱ（西洋思想・文化）

鈴木 啓司

● 演習概要（研究テーマ：フランス現代事情）

各自の研究テーマにそって修士論文を仕上げる。そのための指導を徹底して行う。

● 学修到達目標

説得力のある、それでいて独創的な学術論文を作成すること。

● 演習計画

前期

第1週 研究計画確認
 第2週 発表と討論
 第3週 指導
 第4週 発表と討論
 第5週 指導
 第6週 発表と討論
 第7週 指導
 第8週 発表と討論
 第9週 指導
 第10週 発表と討論
 第11週 指導
 第12週 発表と討論
 第13週 指導
 第14週 発表と討論
 第15週 発表と討論

後期

第1週 研究計画確認
 第2週 発表と討論
 第3週 指導
 第4週 発表と討論
 第5週 指導
 第6週 発表と討論
 第7週 指導
 第8週 発表と討論
 第9週 指導
 第10週 発表と討論
 第11週 指導
 第12週 発表と討論
 第13週 指導
 第14週 発表と討論
 第15週 発表と討論

● 事前事後学習

日本語、フランス語両言語の表現力を磨くことに励んでほしい。

● テキスト

適宜手渡す。

● 成績評価方法

受講態度と修士論文で総合的に判断する。

国際文化協力特別研Ⅱ（国際政治・文化）

増田 あゆみ

● 演習概要（研究テーマ：国際政治学研究）

本研究は、国際政治学を主とし、国際社会における現象を政治学の視座で、分析し、考察することを主たる目的とする。

研究の前半では、修士論文の方針の確認と研究テーマの考察を議論をすることによって、検討を重ねていくことにつとめる。研究の後半においては、個々の受講生の研究テーマの再確認と完成に受けた研究報告を中心に、受講生間での議論を中心に、修士論文の完成へ向ける指導を行う。

● 学修到達目標

受講生の研究テーマに基づいた実証的な研究を積み上げることができるようになること。

● 演習計画

前期	後期
1) 修士課程後期における方針について	1) 研究テーマの考察
2) 研究テーマの再検討	2) 報告と議論
3) 報告と議論	3) 指導
4) 指導	4) 研究テーマの考察
5) 報告と議論	5) 報告と議論
6) 指導	6) 指導
7) 報告と議論	7) 研究テーマの完成
8) 指導	8) 報告と議論
9) 報告と議論	9) 指導
10) 指導	10) 研究テーマの完成
11) 報告と議論	11) 報告と議論
12) 指導	12) 指導
13) 研究テーマの考察	13) 研究テーマの再検討
14) 研究テーマの考察	14) 指導
15) 総括	15) 総括

● 事前事後学習

事前においては、毎回の講義時に報告する文書の予習、事後においては、講義の復習を行うこと。

● テキスト

『国際関係論入門：思考の作法』初瀬隆平編著、法律文化社 2012年

● 参考資料

適宜、指示する。

● 成績評価方法

受講態度および修士論文において総合的に評価する。

国際文化協力特別研究Ⅱ (ドイツ文学・文化)

山本 淑雄

● 演習概要:ドイツ文学研究

「国際文化協力特別研究Ⅰ」に引き続き、修士論文作成を指導していく。先行研究を踏まえながら、独自の観点が確立できているかを確認し、論文完成をめざす。講義の後半ではノヴァーリスの《Heinrich von Ofterdingen》(邦訳名『青い花』)を精読し、特に作中のメルヘンの意義に注目し、ゲーテや他のロマン派のメルヘン、さらにグリム童話を考察することによって、ドイツ・ロマン主義文学の理解を深める。

● 学習到達目標

ドイツ文学の理解を深め、独自の視点から修士論文を完成する。

● 演習計画

- 1)メルヘンの象徴 2)終末論と黙示的世界 3)ユートピアと千年王国
- 4)ゲーテのメルヘン 5)ドイツ・ロマン派のメルヘン 6)グリム童話の世界
- 7)グリム童話の代表作 8)メルヘンにおける異界 9)ロマン主義と歴史の関連
- 10)自然との一体 11)無限への憧憬 12)修士論文発表① 13)修士論文発表②
- 14)修士論文発表③ 15)総括

● 事前事後学習

事前にテキストを熟読しておくこと。

● テキスト

Novalis: Heinrich von Ofterdingen (Reclam)

● 参考資料

授業時に紹介する。

● 成績評価方法

授業時の発表、修士論文の内容を基に評価する。